神戸市感染症発生動向調査週報

平成28年9月21日 作成

インフルエンザ

神戸市感染症情報センター

設置定占数

報告定点数 48 ヶ所

48 ヶ所

第37调 2016年 9月 12日 ~

2016年 9月 18日

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~5ヶ月	~11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	~79歳	80歳~
							1			-1												1								
インフルエンザ					<u> </u>	<u> </u>																								
				と 点数		31	ヶ所																							
<u>小児科</u>			設置足	マログラ とうしゅう とうしゅう とうしゅう とうしゅう とうしゅう とうしゅう とくしゅう とくしゅう とくしゅう とくしゅう しょう とくしゅう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょう しょ		31	ヶ所																							
広	市辮	* ##	由本	丘庙	-11-	長田	須麻	垂水	而	± +	~6ヶ日	~12ヶ月	1 选	2 告	3 告	4盎	5歳	6盎	7歳	2年	0 选	~14告	~10盎	20歳~						

小児科			設置定	≧点数		31	ケ所																	
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	20歳~
RSウイルス感染症	4		1	1			2	1	5	14	1	4	7	2										
咽頭結膜熱		6				2	4			12		3		2	1	2	1	1	1					1
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6	4	1	1				2	6	20					2	3	5	5			4		1	
感染性胃腸炎		6	7	9	28	4	26	49	8	137	2	11	26	20	11	9	8	3	3	7	7	9	7	14
水痘	1			1	2	1				5			1		1	2							1	
手足口病	2						1	7	1	11		1	5	4							1			
伝染性紅斑						2				2					2									
突発性発疹	2		1		1	1	3	3		11	1	3	4	1	2									
百日咳					1					1													1	
ヘルパンギーナ	5	1	3				1	3		13		1	3	4		1	1			1	2			
流行性耳下腺炎	12	2	3	6	6	11	11	4	9	64			2	4	11	14	7	4	3	4	6	9		

8月中旬から9月中旬にかけて、 関西国際空港、西宮市、尼崎市で 麻しんの集団感染がありました。 神戸市では医療機関からのご相 談に基づき遺伝子検査を実施して います。現時点では、9月1日の1 例のみの患者発生に留まってお り、市内での集団感染は発生して いません。

現在、麻しん風しん混合ワクチ ンが不足しているため、1歳児の 定期予防接種を優先しています が、供給は10月以降に改善する見 通しです。定期予防接種の対象者 (1歳児・小学校就学前の1年間) や、過去に予防接種を受けたこと がない方、定期予防接種を1回し か受けていない方は計画的に予防 接種を受けましょう。

報告定点数 10 ヶ所

眼科			設直刀	E尽剱		10	ケ肝																						
疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	~6ヶ月	~12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	~14歳	~19歳	~29歳	~39歳	~49歳	~59歳	~69歳	70歳~
急性出血性結膜炎																													
流行性角結膜炎								1	1	2		1		1															

(定点機関から報告されたその他の感染症情報)

東灘区〇マイコプラズマ肺炎1例:5~9歳男(6101) 東灘区〇マイコプラズマ肺炎1例:5~9歳女(6102)

灘 区〇マイコプラズマ感染症1例:10代女(6202)

中央区〇マイコプラズマ感染症2例:0~4歳女、5~9歳女(6301)

北 区〇マイコプラズマ感染症2例:5~9歳女、10代男(6505)

垂水区○細菌性腸炎(病原性大腸菌)1例:性別・年齢不詳(6804)

垂水区〇細菌性腸炎(カンピロバクター)1例:性別・年齢不詳(6804)

西 区〇マイコプラズマ感染症2例:5~9歳男、10代男(6902)

西 区〇細菌性腸炎(カンピロバクター)1例:10代男(6902)

西 区〇マイコプラズマ感染症1例:年齢·性別不詳(6903)

西 区〇ロタウイルス感染症1例:年齢·性別不詳(6903)

「お知らせ」バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。

神戸市 発生動向 〔検索〕

または、神戸市ホームページ上段のバナーを以下のとおりたどってください。

(トップページ > くらし・手続き > 健康・医療 > 感染症・予防接種 > 感染症発生動向)

【結核に関する情報】 今週の結核届出患者数は7人(うち潜在性結核感染症1人)です。

【市内の感染症の状況】

平成28年10月15日から小児および高齢者のインフルエンザ予防接種の 公費助成が始まります。対象年齢や助成額等詳細は神戸市ホームページ でご確認お願いします。

(接種期間は平成28年10月15日~平成29年1月31日です。)

【感染症発生動向調査事業実施要綱】

http://www.citv.kobe.lg.ip/life/health/infection/trend/img/youkou110729.pdf

※病原体サーベイランスとは、流行する感染症の病原体を詳しく調べて、その特徴や流行状況を監視する システムです。解析結果は、「神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況」をご覧ください。

全数把握対象感染症発生状況	(五類感染症 クロイツフェルト・ヤコブ病))
工权161注7] 多心未证尤工700	・ (土規心未延 ノローノノエル) (コノ)))	,

	101111					• •			
性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	60代	2016年8月頃	2016年9月6日	2016年9月12日	孤発性プリオン病	協尿症候 検査(脳波、脳MRI)	進行性認知症, 錐体路症状 ミオクローヌス 無動性無言状態, 記憶障害, 精神・知能障害	/	

全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症)

-			D 110-	777101111		1000 1 1000 1 1 1 1 1				
	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
	女	80代	2016年9月2日	2016年9月2日	2016年9月16日	/	血液培養 薬剤耐性の確認	菌血症	不明	
	女	80代	2016年9月18日	2016年9月18日	2016年9月19日	/	血液培養 薬剤耐性の確認	胆管炎	不明	

全数把握对象感染症発生状況 (五類感染症 梅毒)

I	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
	女	40代	/	2016年9月13日	2016年9月13日	早期顕症梅毒Ⅱ期	RPRカードテスト TPHA法	梅毒性バラ疹	性的接触	

全数把握对象感染症発生状況 (五類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症)

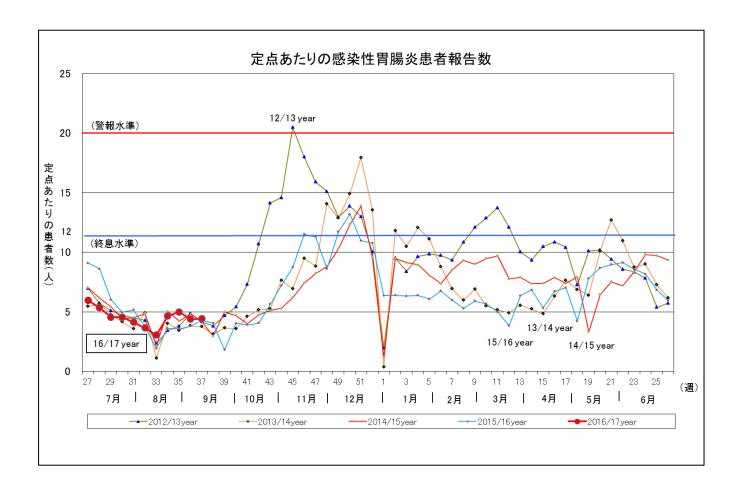
_			D 1470	<u> </u>		ンストジャロンロンスクル	<u> </u>			
	性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
	女	30代	2016年9月15日	2016年9月15日	2016年9月20日	/	血液培養法	発熱・嘔吐 菌血症・乳腺炎	接触感染	ワクチン接種歴 なし

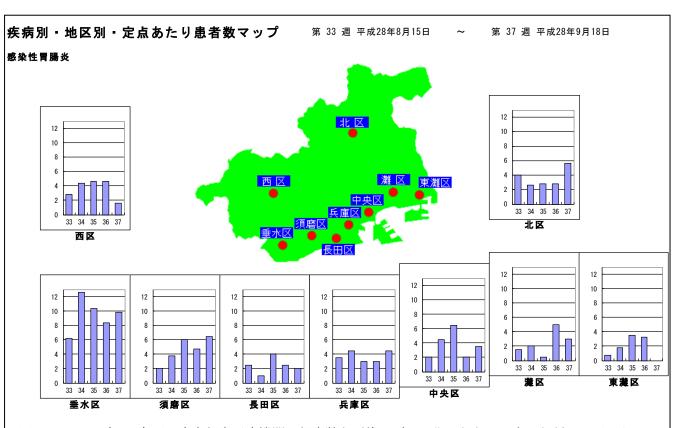
全数把握対象感染症発生状況 (五類感染症 ウィルス性肝炎)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	30代	不明	2016年9月17日	2016年9月17日	B型	血清でのIgM HBc抗体 の検出(A型)	全身倦怠感 黄疸褐色尿 肝機能異常	不明	

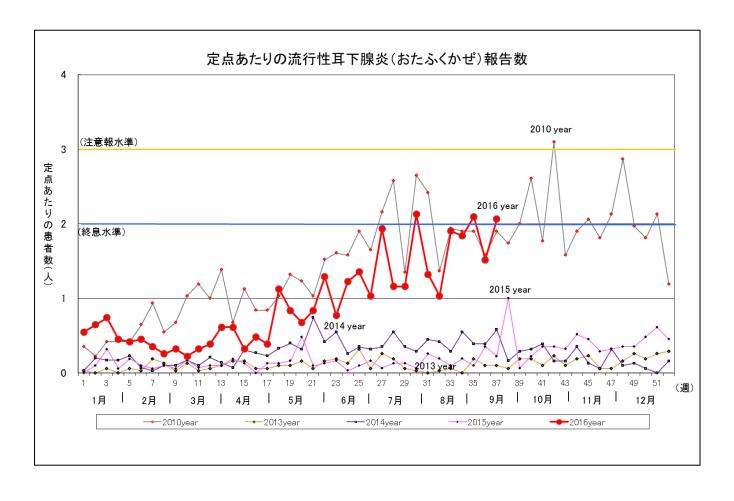
神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

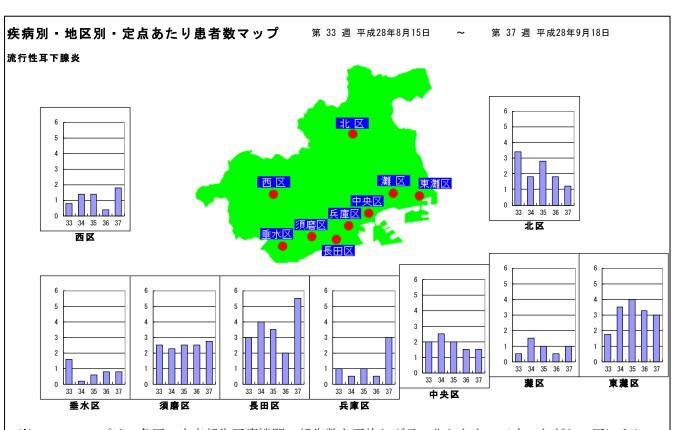
病原体	検体	届出医療機関所在区	状況
ムンプスウイルス	唾液	中央	3歳5ヶ月男児(8/29採取、37.1℃)
B型インフルエンザウィ (ビクトリア系統)		須磨	5歳男児(9/5採取、40.2℃、インフルンザ、ワクチン接種歴不明)、フィリピンから帰国後に発症





※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により 報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握 できるものではありません。





※ このマップは、各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。ただし、区により 報告医療機関数は異なるので区内の継時的な傾向を把握することはできますが、区間の違いを正確に把握 できるものではありません。